

ところ。この春気付いたこと（印象：科学的な根拠なし、因果関係計測なし）3点、記してみます。

- ① 少雪だったが、ユキツバキの枯れた姿は目にしていない。しかし、落葉が目立ったような印象がある。
- ② 今年は、ゼンマイの収穫が多かった。それもいつもより太いものが多かった。……村のバア様方のことば。私も両親も同じ印象を受けています。
- ③ 家の裏に何種類かのシダを、山から移植しています。数年を経っていますが、今春は葉柄も太く勢いが盛んです。

## 南魚沼郡湯沢町

佐藤 政二

雪国湯沢の2月の雪消えの早さは1990年以來のことで、17年ぶりであります。下旬には南面する急斜面の地肌が現れて、春の胎動が見られるようになりました。湯沢で今年初めて開花を確認したのはマルバマンサクで2月28日、魚野川沿いの里山でした。

3月4日には、清津川の二居でアオイスミレが花より小さな葉を2枚つけて開花しました。8日には、湯沢の東山でスハマソウが新葉を見せないで咲き始めました。近くではカタクリが花茎を伸ばしながら、葉を広げようとしていました。以前湯沢の里山でスハマソウの開花を確認したのは4月上旬のことで、新葉も伸ばし始めていました。周囲にはヒトリシズカ・エチゴキジムシロ・ミヤマキケマン・コシノホンモンジスゲなどが開花していました。

その後は一転寒の戻りの冬日で、雪また雪の日々となり、里山でも50cm以上の積雪となりました。窓の外に舞い降りる雪を見ながら、花の標本の紙換えをしていると、標本の花が凍りついていくように見えてきます。残雪に覆われている場所がほとんどの、3月23日の湯沢では、オオニワトコがつぼみと細い葉を雪のうえに復活させていました。

二居のアオイスミレが再び現れたのは3月29日で、雪のように白い花をつけていました。

里山の雪が消えた4月も春暖の日が続くことすくなく、陽だまりの温もりを感じませんでしたが、4月2日の広河原ではヤナギ・ダンコウバイ・ケキブシ・アオイスミレ・コチャルメルソウ・エンレイソウの開花を見ることができました。また、4月10日の滝の又ではヤマアイ・ヤマエンゴサク・ツルネコノメソウ・ホクリクネコノメソウ・チシマネコノメソウ・コシジタネツケバナ・ハシリドコロ・タヌキランが開花していました。4月14日の小久保沢でアズマイチゲの開花に出会いました。幾年も湯沢を歩いているのに初対面でした。

4月の末に二居でフモトスミレ、湯沢でエイザンスミレ・マキノスミレ・セントウソウが開花していました。いままで、ゴールデンウィーク明けから5月末にかけて開花を確認していました。今後も植物のうちに秘めた対応の姿を見つめていきたいと思っております。

## この春、気になった佐渡の植物

渡辺 洋子

暖冬と思っていた所が、2月の下旬から急に寒くなり、その後、暖かい日が交互に来るなど、植物もとまどって早く咲くもの、遅く咲くもの、まちまちの感を受けました。

大野危のトビシマカンゾウも、今年は色こそ濃いのですが、背が低く、花も小ぶりでした。例年同じ頃に咲くカラマツソウやオオハナウドはすでに花が終わり、アサツキは花色も浅く、小さくてきちんと開花しないのも、多数あるように思われました。

その他にも気づいたことを少し拾ってみたいと思います。

4月7日杉池へ行ったのですが、ユキツバキの蕾がとても少なく感じられましたが、伸には茶色く変色した小さな固い蕾がいっぱい下に落ちている木もありました。昨年12月15日新穂大野の清水平の辺りを歩いていた時、ユキツバキの花が落ちているのに驚きました。よくみると、その木には開きかけの蕾をつけた木が見られ、春の開花期に再度行ってみようと思いながら、そのままになってしまいました。杉池へは5月7日再び行った時、ユキツバキは満開ではありましたが、全体に小さい花が多く感じられました。

1月1日、加茂湖畔の樹崎を散歩していると、樹高7～8mのイヌザクラの木に一面に蕾がついていて、枝先には若葉の出ている木がありました。この木の周辺が特別暖かいのか、近くのキタコブシも蕾がふくらみ、キタコブシの花芽は正月見た時と変わらぬ状態にみえましたが、イヌザクラの方は葉も蕾もすっかり落ちてしまっていました。

正月の時、イヌザクラとキタコブシの枝を持って帰って、窓辺の暖かい陽の当たる場所に置いたのですが、面白いことに、キタコブシは4・5日で、曲がりなりにも開花したのですが、イヌザクラは蕾の先が割れて白い花びらが見えているような蕾もあったのに、とうとう1個も開花しませんでした。

その後、5月8日に樹崎に行くと、カスミザクラやウワミズザクラ、コバノトネリコ、レンゲツツジ等は花が咲いていましたが、イヌザクラの木にはほんのわずかの蕾しかついていませんでした。

この他、ここ10年余り毎年見ている木に梅津の真法院の苔梅があります。幹周2.57cm、樹高10m（伊藤邦男佐渡巨木と美林の島より）という大木で、佐渡で一番大きな梅ノ木です。花は薄いピンクの八重咲きで、彼岸の入りの頃にまだ蕾の固い年と少し開く年とがあります。ところが、今年は2月23日、すでに蕾がふくらんでいて、早いのに驚きました。しかし、このあとの冷え込みで3月18日彼岸の入りによっと3分咲きとなり（例年よりは早いのですが）、26日頃になって満開に近づきました。長くかかっ

## フジキの開花

石 沢 進

フジキは、新潟県新井市の高床山で分布の北限である。津南町の中津川沿いの逆巻付近には群生している。そのフジキは1998年前に一斉に開花したことがあり、その後開花した形跡がなかったが、本年7月7日に開花したとのことで、中沢英正氏の案内で現地の開花状況を確認した。本種は、開花時には山の斜面に点在する様子が、樹一面に白い花が咲くので、遠くから見てもよく分かる。逆巻付近の中津川左岸に本数が多く、右岸に少ないようである。

ブナと同じようにフジキも豊作年があるようで、本年はその年にあたり、枝の各所に多数の花をつけていた。津南のフジキの開花記録をたどると、1993年7月6日に開花した写真が「津南町の自然—植物編—」に掲載されている。その時に一斉開花したことは明らかでない。その5年後の1998年に一斉開花し、本年（2007年）に再び一斉に開花して最初の開花記録の14年目、前回の一斉開花の9年目に当たる。開花の周期性については、さらに記録を重ねないと明らかではない。本年7月7日には、花の終わりかけた個体が多いようであった。



写真 開花株 中津川左岸 (2007 7 7)

たわりには花数も多くまあまあの咲きぐあいでした。その近くにはいつもは早く咲く一重の白梅があるのですが、今年は苔梅と同じ頃、満開になりましたが、いつもは純白の花なのに、かなり濃い赤味の混じった花が多く見られました。開花近くなってから強い寒さがきたせいなのでしょうか。

あやふやな記録ですが、見たこと、気になったことを書いてみました。

2007年(平成19年)3月2日(金曜日)

## 新 潟 日 報

気象庁は一日、記録的暖冬だった今冬（昨年十二月〜二月）の天候まとめを発表した。平均気温は、全国百五十三観測地点のうち新潟、佐渡（相川）、仙台、東京、名古屋、大阪、福岡など七十五地点で観測史上最高（過去タイの十二地点含む）。二位が三十一地点、三位が十三地点と、全体の約78%に当たる地点で過去三位以内の暖かさだった。（関連記事34面）

# 歴史的暖冬

気象庁によると、今冬と、日照時間は県内二十の平均気温は佐渡市（相川）が六・三度、新潟市が五・四度といずれも平均を約二度上回り、それぞれ統計開始の一九二一年、一八八七年以降最も高かった。上越市（高田）も四・八度で、過去三番目の高さだった。新潟地方気象台による、め、長期的な気候変動

平均気温 75地点で過去最高

それ統計開始の一九二一年、一八八七年以降最も高かった。上越市（高田）も四・八度で、過去三番目の高さだった。新潟地方気象台による、め、長期的な気候変動

計の残る一九四九年以来で一九四八―四九年冬と並び最高を記録。同行は「観測史上トップ級の暖冬だった」としている。

原因として気象庁は①北極圏が寒気を蓄積・放出する「北極振動」が寒気蓄積期だった②エルニニョ現象③地球温暖化を挙げている。

期間中の降雪量は、平均で二四一センチの佐渡市が「一センチ未満」、同二八センチの新潟市は五センチ未満、全国二十地点（前年までの最少が一センチ未満の地点除く）で観測史上最少を記録した。